



白神の絆

【発行】林野庁 東北森林管理局
津軽白神森林生態系保全センター

住所：〒038-2754 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字米町 25-2

TEL：0173(72)2931 FAX：0173(72)2932

冬期におけるニホンジカ対策の検証開始

今年度、ニホンジカ対策実施計画として当センターでは、ニホンジカの誘引剤（飼料など）及び冬期間において小型囲いわなが正常に稼働するか、越冬候補地を探すために西海岸側へセンサーカメラを設置するなどの検証を1月から行っていきますので、小型囲いわな稼働検証の一コマを紹介します。

小型囲いわなの今年度稼働期間はすでに終わっているため、誤って扉が落ちないようにストッパーをして（写真①）、動物がおりに入ると反応するセンサーと扉を連結する部分が厳冬期でも正常に動くかなどの確認をする作業となります。このわなは、連結部分が磁石（写真②の右上）になっており、センサーが反応すると磁石が外れて扉が落ちるという仕組みです。

1月下旬から1週間程度放置し、動作確認を何度か確認したところ、通常はセンサーに反応して磁石が外れて扉が落ちるのですが、写真②のときは連結部分に雪が解け水分が入り込んだためか、凍結して磁石が外れませんでした。冬期間は連結部分の水分をきちんと拭き取るなどの措置が必要だと確認できました。

この検証は3月中旬あたりまで行う予定であり、今後もニホンジカ捕獲に関する基礎資料のデータ収集に励みます。（葛西）



写真① 小型囲いわなの検証

（2020.1.21 深浦町）



写真② 手をかざしても扉が落ちず・・・

（2020.2.10 深浦町）

深浦町で一生に一度の遭遇

当センターでは冬期間もニホンジカ対策として痕跡調査や厳冬期の小型困いわな稼働検証などを行っていますが、その際に珍しい鳥を見ましたので紹介します。新聞記事ですすでにご存知の方もいると思いますが、深浦町で「コウノトリ」と遭遇しました(写真①)。

私がコウノトリと聞いて思いつくことは、「赤ちゃんを運んでくる」というふんわりとしたペリカンみたいな鳥だと勝手にイメージしていました。ところが、実際に初めて見たコウノトリは、白と黒の羽で、くちばしは黒く、顔はどんな感じかなあ?とよく見ると・・・かなり泥だらけで野性味溢れた顔つきで驚きました。なぜそんなに泥だらけなのか観察を続けると、田んぼや湿地の泥に顔を突っ込んでエサを採っているようで、鳥類に詳しい人から聞いたところタニシやカエルなどの水生動物を食べるとのことでした。

コウノトリは国内で絶滅したものの、再び蘇らせようと2005年から野生復帰事業が始まって約15年となり、兵庫県北部の但馬地域を中心に繁殖個体群が復活しつつあるそうで、個体識別のため一羽一羽に異なる色の足環を付けているとのことでした。

そこで、飛来したコウノトリを確認すると確かに足環を装着しており(写真②)、ふ化年月日や巣立ち日、雌雄など詳細を調べてみました。

- ① 個体番号 J0215
- ② 足環 左足→上から青・黒、右足→黄・青
- ③ 孵化年月日 2018年6月2日(2歳)
- ④ 雌雄 メス
- ⑤ 孵化場所 飼育下で孵化
- ⑥ 放鳥年月日 2018年9月27日
- ⑦ 放鳥した機関 兵庫県立コウノトリの郷公園・養父市(兵庫県)
- ⑧ 放鳥場所 兵庫県養父市
- ⑨ 足環装着者 兵庫県立コウノトリの郷公園



写真② コウノトリ足環

(2020. 1. 31 深浦町大字関)

今回調べた事や生態など詳しい情報は「兵庫県立コウノトリの郷公園(<http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/>)」のホームページにありますので、興味のある方は上記アドレスで覗いてみてはいかがでしょうか。

最後に、記事の見出しで「深浦町で一生に一度の遭遇!」とした理由は、2020年1月24日現在で野外のコウノトリが日本全国で180羽に満たないことが書かれていたので、非常に貴重な遭遇だったことがみなさんにも分かるかと思います。

みなさんの周辺でもしもコウノトリが飛来した際には、「兵庫県立コウノトリの郷公園」まで連絡をお願いします。(葛西)